

# GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

\* 2021 \*

Summer

麗  
し  
き  
地  
中  
海

第二特集

キャンペーンシップとして

SDGsを世界に広める

[発行] (株) ジャパングレイス





# 爽やかな風のなかで 煌めく地中海へ



ユーラシア大陸とアフリカ大陸に囲まれた「地中海」。沿岸各地では古代より数々の民族が栄え、中世から現代に至るまで長い歴史が刻まれ、多種多様な文化が形成されてきた。また世界的にリゾート地の宝庫としても名高く、ピースボートの寄港地も多い。今号ではおすすめの寄港地を取り上げ、必見のスポットをはじめ、お土産、グルメまで紹介する。



Mediterranean

## GLOBAL VOYAGE 2021 Summer

### CONTENTS

#### 特集

## 爽やかな風のなかで 煌めく地中海へ ..... P3

ホワイト&ブルーのコントラスト  
サントリーニ島の景色に酔う ..... P4

ピレウスからアテネへ向かい観光を堪能する ..... P5

赤い屋根の美しい街並み  
城壁に囲まれたドブロブニク ..... P6

中世の趣を今に伝える城塞都市コトル ..... P7

ナポリで観光を楽しんだらグルメを満喫 ..... P8

古代の街チビタベッキアから「永遠の都」ローマへ ..... P8

名建築を巡る芸術の都バルセロナ ..... P9

2600年の歴史をもつ風光明媚なマルセイユ ..... P9

地中海の中ほどに浮かぶ「宮殿の街」バレッタ ..... P10

お好みはどれ？  
世界三大フルーツ ..... P12

#### 第二特集

## キャンペーンシップとして SDGsを世界に広める ..... P14

ピースボートの寄港地でSDGsを学び実践する ..... P16

パレスチナ・ガザ地区へ人道支援  
現地パートナー、ザヘルさんの家再建プロジェクト ..... P18

#### 表紙の写真

切り立つ山の前に広がる、  
イタリア随一の美しさといわれるアマルフィ海岸。







## ピレウスからアテネへ向かい 観光を堪能する

ヨーロッパ最大級とされる「ピレウス港」はギリシャの産業発展を支えてきた歴史ある港である。港周辺にも観光スポットはあるが、アテネ中心部からも近いためクルーズでは地下鉄もしくはタクシーでアクセスし、古代ギリシャ文明の遺産の数々を巡る観光も人気だ。



ピレウスにはレストランが立ち並びヨットハーバーもある。

ピレウスはギリシャ第4の都市であり、ピレウス港は1日約2000万人が利用する、24時間稼働のヨーロッパ最大級の港である。大小さまざまな船が行き交う様子は見飽きることがない。新鮮な魚が並び市場が多く、漁港らしい活気に満ちている。その魚介類を使ったギリシャ料理を食べられるレストランも街中にたくさんある。港近くの観光では古代ヘレニズム期やローマ時代の貴重な資料が展示される「ピレウス考古学博物館」を観賞するのもよい。

またアテネまで地下鉄で20分というアクセスのよさで一日観光にも最適。まずは古代遺跡のシンボル「アクロポリス」へ。ここはオリンポスの神々を祭った神域であり



アテネのシンボルでもある古代の聖域「パルテノン神殿」。



近代オリンピックが初めて開かれた「パナティナイコスタジアム」。

要塞でもあった。世界遺産「パルテノン神殿」はドーリア式建造物の最高峰で、白大理石の円柱がそびえ立つ迫力に圧倒される。対照的なのが6体の女神像が屋根を支える「エレクティオン神殿」で、優雅さを感じられる。このほか「ゼウス神殿」「ディオニソス劇場」など見どころ満載だ。アクロポリスの丘を下りたところにあるキタネシオン通りは庶民的なレストランが多い。お腹を満たした後に、お土産を探すのも楽しい。



## ホワイト＆ブルーのコントラスト サントリーニ島の景色に酔う

「一生に一度は訪れたい島」として知られるサントリーニ島では、真っ青なエーゲ海と真っ白な建物、世界一美しいといわれる夕日をはじめ、思わずうっとりしてしまう景色を堪能したい。ワイナリーも多く、レストランでワイン片手にエーゲ海を眺めれば、最高のリゾート気分にもなる。

Santorini



1:白と青を基調にした可愛らしい街並みに石畳がよく似合う。2:島のあちこちから見る風車。3:断崖をサントリーニ島の名物ロバに乗って登ることもできる。

地中海東部のエーゲ海は、古代から中世にかけて海運で発達した都市が多く、遺跡や美しい港町が人気のクルーズエリアだ。点在する島々はまばゆい陽光を受け、白い建物が輝き、素晴らしい景観を満喫できる。なかでもピロスポートクルーズでは最も魅力的な島のひとつ「サントリーニ島」へ、テンドーボートという通船に乗り換えて上陸する。

サントリーニ島はエーゲ海にある227の有人島のひとつで、ギリシャ本土から南東へ約200キロメートルの位置にある。映画やCMのロケ地としてもたびたび使用されている島の中心地フィラは、青と白の世界。街は300メートルの断崖の上にあるため、ケイブルカーに乗れば、眼前に広がる深く青い海と白い建物のコントラストを堪能できる。街はいつも賑わっていて、ヒバパンティス通りにはレストランや土産店が多く揃っている。遺跡を辿りたいなら「新先史期博物館」には新石器時代以降の化石、壁画、陶器などが展示されているし、南部にある「アクロ

ティリ遺跡」では紀元前1500年頃の大噴火で埋もれた古代都市の文明にふれることができる。

島の北端イアの街には、かわいらしい青い色のドーム形の屋根をかぶった白い建物が斜面に立ち並び、絶景のスポットが多数点在する。石畳の小道にはおしゃれなショップが並び、落ち着いた雰囲気の中でゆっくり食事をして、特産のワインを楽しむながらリゾート気分にもなる。おすすめだ。またイアから見る夕日は世界一といわれ、出港時間によってはイアの白い街並みがオレンジ色に染まるようすを一望できるだろう。



サントリーニカラーの青色の陶器はお土産の定番。

ギリシャは高品質なオリーブオイルの世界有数の生産地。

さまざまなタイプがあるブルードームの置物。





Kotor

複雑な入り江に交易船が行き交うコトル湾に位置する古い港町コトル。



## 中世の趣を今に伝える 城塞都市コトル

アドリア海を挟み、イタリアの対岸に位置するモンテネグロ。美しいフィヨルドの深部にある古都がコトルである。前方を海、背後を山々に守られた城塞都市として中世の美しい姿を現在に伝えている。

モンテネグロのコトルはアドリア海沿岸のなかでも中世の面影が色濃く残っている世界遺産の街である。三方を険しい山に囲まれ、天然の良港であるコトルはローマ時代から交易船が行き交い繁栄してきた。「世界」美しい湾」といわれ、入港の際には山々の迫力と海沿いの街並みの景色をぜひ楽しんでほしい。

港からほどなく石畳の路地が走る旧市街に到着する。歴史的建造物が立ち並び、赤茶色の屋根に白っぽい石造りの建物が続く美しさに目を奪われる。またかつてコトル港を拠点に貿

易で財を築いた商人たちが構えた立派な館が、今はホテルや博物館として残り、通りを趣深いものになっている。

旧市街で必見なのは1166年に建てられた「聖トリプン大聖堂」。主祭壇はじめ聖遺物展示室では絵画や宝飾品を見学できる。また18世紀に建てられたバロック様式のグルグリナ宮殿を利用した「海洋博物館」では、当時の地中海の地図やガレオン船の模型、装飾品などが展示されている。

旧市街の北東にはレリーフのある門があり、山に向かって延びている城壁を登っていくことができる。頂上までは健脚の人で30分ほどかかるが、10分ほどで辿り着く「聖母教会」あたりからも、コトル湾と旧市街の街並みを見渡すことができる。



1:旧市街の観光の目玉である「聖トリプン大聖堂」には双塔がそびえている。2:城塞内にある主に生鮮食品を扱う市場は早朝からにぎわっている。



## 赤い屋根の美しい街並み 城壁に囲まれたドブロブニク

「アドリア海の真珠」とたたえられる美しさを誇るのが、クロアチアのドブロブニク。中世から東方貿易の拠点として栄えてきた港町で、旧市街の街並みや歴史的建造物、城壁などが世界遺産に登録されている。



Dubrovnik

こぢんまりと美しくまとまったドブロブニクの街全体を望む。

旧市街への入口は3カ所あるが、西の「ピレ門」がメインゲート。入るとすぐにメインストリートのプラツァ通りがあり、ルジャ広場まで約300メートルにわたって観光名所、カフェや土産店などが並び賑わっている。鐘楼が目立つ「フランシスコ会修道院」は静かな中庭でホッと一息つける。メインストリートのプラツァ通りは、かつては激しい内戦があった場所だが、現在は重厚感ある道沿いにレストランや土産店が並び、いつも多くの人で賑わっている。

旧市街を取り囲んでいるのが高さ25メートル、全長2キロの城壁。中世に建造され、今は空の散歩道として観光客に愛されている。城壁の上からはオレンジ色に統一された建物の屋根、アドリア海とエラフィテ諸島の風景が広がる。時間があれば街の背後にそびえる標高412メートルの「スルジ山」へケーブルカーで上がり、さらなる絶景を楽しむのがおすすめ。山頂のカフェでゆっくり過ごすこともできる。



クロアチアで栽培が盛んなラベンダーのグッズ。



古くから金銀細工が盛んなクロアチアでは、伝統的なジュエリーも魅力。



地中海の中央に位置する南イタリアを代表するナポリは、毎年多くの観光客でにぎわっている。「ナポリ歴史地区」として世界遺産に登録された旧市街には「卵城」「ヌオーヴォ城」など古城や大聖堂、教会などの歴史的建造物が多くあり、下町情緒もあふれる街並みが訪れる人を魅了する。美食の街としても知られるナポリで新鮮なシーフードや地中海岸産のトマトを使ったピッツアやシーフード料理に舌づみを打つのも至福のひとつ。

オプショナルツアーでは、世界で最も美しい海岸線として知られるアマルフィやそこから続くサレルノへ足を延ばすのもいい。また「ポンペイ遺跡」もおすすめ。古代ローマの山並みや石組みがそのまま残り、古代都市から掘り起こされた神殿、浴場、コロッセオなどの遺跡を巡ると、タイムスリップしたような体験ができる。

1:1940年前のヴェスヴィオ火山の噴火で姿を消した都市が「ポンペイ遺跡」として今に残る。紀元前から発達した都市の神殿やコロッセオ、浴場などの姿を知ることができる。2:丘から望む風光明媚なナポリの街。



## Balearic Sea

[バレアレス海]



## ナポリで観光を楽しんだら グルメを満喫

ローマ、ミラノに次ぐイタリア第三の都市ナポリ。湾一帯は、世界三大美港と称されるにふさわしく、古くから「ナポリを見てから死ぬ」といわれるほどの美しさだ。また遠くにはヴェスヴィオ火山も眺めることができる。



## Tyrrhenian Sea

[ティレニア海]



## 古代の街チビタベッキアから 「永遠の都」ローマへ

チビタベッキアは、イタリアのラツィオ州にある。日本と関わりの深い街で、1615年に支倉常長率いる慶長遣欧使節団が上陸。「日本聖殉教者教会」もあり、天井には「和服姿のマリア像」のフラスコ画が描かれている。

「古代の街」を意味するチビタベッキアは、ローマの外港として栄えてきた。寄港した場合、多くは電車で1時間ほどの距離にあるローマ観光へ出かける。世界屈指の観光地であるローマは世界遺産をはじめ名高い遺跡がひしめいている。円形闘技場「コロッセオ」ではすり鉢状の客席から全体を見渡すことができ、猛獣などを収容していた地下施設も見学できる。映画「ローマの休日」でおなじみの「スペイン階段」や「真実の口」もぜひ巡りたい。ひと息つくならローマで一番細長い広場「ナヴォーナ広場」へ。ローマ人たちの憩いの場でもあり、ネプチューンの噴水が心をなごませてくれる。世界一小さな国でありカトリックの総本山「ヴァチカン」はローマの街中にあり、多くの観光客が訪れる。サン・ピエトロ大聖堂につながる「サン・ピエトロ大聖堂」の芸術性の高さは圧巻。「ヴァチカン美術館」では、「最後の審判」などの壁画を見ることができ、入場するならば事前の予約をおすすめする。



3:チビタベッキアの美しい街の中心地に建つ大聖堂。4:チビタベッキアの港を保護する砦として建てられた「ミケランジェロ要塞」。海に突き出すように築かれた要塞は、芸術家ミケランジェロによって設計された。

5:バルセロナを代表するメインストリート「ランブラス通り」。カタルーニャ広場からコロンプスの塔まで続く繁華街には、劇場や数々のショップ、レストランが並び夜遅くまで人通りがある。6:おとぎの国のような楽しさに満ちたガウディ作品の一つ「グエル公園」。



## Balearic Sea

[バレアレス海]



## 名建築を巡る 芸術の都バルセロナ

スペイン第二の都市バルセロナ。19世紀後半に産業革命を成し遂げると同時に「モデルニスム」と呼ばれる芸術・文化運動がおきた。ガウディを筆頭に稀代の建築家たちが残した名建築の数々を巡ってみたい。

## Gulf of Lion

[リオン湾]



## 2600年の歴史をもつ 風光明媚なマルセイユ

ゴッホやピカソ、マティスなど多くの芸術家に愛されたプロヴァンス地方の港町マルセイユ。2600年の歴史をもつフランス最古の都市でもある。天然の良港であり、現在も商都として発展を続けている。



7:港町らしい旅情に満ちたマルセイユ。建築物の美しさも必見。8:海に面した遊歩道にそびえる「マルセイユ大聖堂」。ローマ・ビザンチンスタイルのデザインで、高さ70メートルの中央ドームは驚くほどの大きさ。1906年に歴史遺産に登録された。

古くからフランスの海の玄関であり、2600年の歴史を物語る貴重な遺産があるマルセイユ。年間通して晴天の多い街では、地中海の日差しを浴びながらの観光を満喫できる。標高154メートルの丘の上に建つ「ノートル・ダム・ド・ラ・ガルド寺院」はマルセイユのシンボル。鐘楼の上のマリア像が船乗りの安全を見守ってきた。テラスからは地中海が一望でき、彼方にはアレクサンドル・デュマの「モンテ・クリスト伯」で有名になった「イフ城」が見える。

昔ながらの港町の雰囲気を残す旧港や、「マルセイユのシャンゼリゼ」と呼ばれるメインストリートのカヌビエール通りを散策するのも楽しい。名物のトラムも風情を感じられる。お洒落な通りのカフェテラスでひと休みするのもいい。またレストランで世界的に知られるグイヤーペースをはじめシーフードグルメを楽しむこともできる。







1: マルタ通りの階段は聖ヨハネ像と聖パウロ像で飾られている。2: マルタの建物は出窓が多くカラフルに彩られ、街並みのアクセントになっている。3: バレッタ旧市街を取り囲む壮大な城壁と空堀。4: ゆっくりくつろげる「アッパー・バラッカ・ガーデン」。



多くのお土産店にあるマルタ騎士団のフィギュア。



日本のものと比べて格段に柔らかいマルタのタコ。

バレッタは複雑な地形の半島に、中世ヨーロッパの三大騎士修道会の一つ、聖ヨハネ騎士団がかつてオスマン帝国から守るために城塞として築かれた街である。入港にあたつてまずデッキから世界有数の美しさといわれる、高い城壁に囲まれたバレッタ旧市街の街並みを眺めることができる。メインゲートから半島先端の聖エルモ砦まで歩いて約20分だが、長い歴史と伝統の重みをもった街並み、建造物をはじめ魅力にあふれている。

城門シテイゲートを抜けると旧市街に入り、メインストリートのリパブリック通りに出る。端から端まで15分ほどだが、カフェ、土産物店、ブティックなどが並び、散策するだけでも楽しい。「聖ヨハネ大聖堂」は騎士団の守護聖人ヨハネに捧げられた教会で、重要なことをバルコニーから伝えていたといわれている。比較的質素な外観と比べ内部は豪華絢爛なのでぜひ見学したい。天井には聖ヨハネの生涯が石の表面に油絵で描かれ、中央祭壇にはキリスト教の洗礼の大理石彫刻が飾られている。歴代の騎士団長の公邸として使われていた「騎士団長の宮殿」の廊下では騎士団の甲冑や紋章、肖像画などを観賞できる。天井のフレスコ画や大理石の床の細工などその素晴らしさに目を奪われる。

「アッパー・バラッカ・ガーデン」は、敵の攻撃を防ぐための小型の要塞の上につくられた公園で、地中海とスリーシティーズの街並みが一望できる。公園内にはベンチも設置されているので休憩にもちょうどいい。バレッタは観光名所だけではなく旧市街全体に趣があり、あちらこちらに置かれる聖人像、カラフルな出窓、味わいのある路地など、散策だけでも思い出に残る旅の発見があるだろう。

## さあ、お楽しみが満載の地中海クルーズへ。



地中海はクルーズで特に人気の高いエリアだ。美しい島々、360度展開する大海原。澄みきった空気、爽やかな潮風。そして夜は満天の星。異なる絶景が次々と現れる様子は、船上にいる時間そのものがこのうえなく贅沢であることを実感させてくれる。また各寄港地は趣に富み、歴史や文化を背景にしたそれぞれの美しさで迎えてくれる。クルーズでしか出会えない街に寄り、景色を堪能できるのも大きな魅力。そして世界遺産をはじめとする観光スポットも多く、美術鑑賞やグルメ、ショッピングとお楽しみが満載。さあ、あなたも地中海クルーズへ。



## 地中海の中ほどに浮かぶ「宮殿の街」バレッタ

地中海に浮かぶ小さな島国マルタ共和国。主要な3つの島のうち最も大きなマルタ島にある首都バレッタは、旧市街全体が世界遺産に登録されている。歴史的価値の高い遺産をいたるところで見学できるほか、お洒落なカフェやレストランなども立ち並び、観光地として人気が高い。



Valletta

バレッタの象徴的な風景として知られる、海から眺める城壁と旧市街。カーマライト教会も見える。



バレッタには数多くのレストランがある。テラス席でワインとマルタ料理を堪能するのもおすすめ。



マルタ島南東部に位置する漁村マルサシュロック。ルッツと呼ばれるカラフルな漁船がひしめいている。



市街地方向から海を望む。街には「マルタストーン」と呼ばれる蜂蜜色の石灰岩で造られた建築物が並ぶ。



 <div data-bbox="160 510 385 562"> <p>〔 サワーソップ 〕</p> <p>Soursop</p> </div> <p>アメリカ大陸、カリブ諸島などが原産。果汁が多く、バナナのような甘味と食感、イチゴやパイナップルのような香りと爽やかな酸味がある。</p>	 <div data-bbox="510 510 736 562"> <p>〔 パッションフルーツ 〕</p> <p>Passionfruit</p> </div> <p>アメリカ大陸の亜熱帯地域が原産。常温で追熟し表皮にシワが出たら食べごろ。半分に切ってゼリー状の黄色い果肉を種ごと食べられる。</p>	 <div data-bbox="857 510 1083 562"> <p>〔 カニステル 〕</p> <p>Canistel</p> </div> <p>原産地はメキシコから中央アメリカ。ブラジルや台湾、ベトナムで栽培されている。甘く、ゆで卵のような食感でエッグフルーツとも呼ばれている。</p>	 <div data-bbox="1205 510 1430 562"> <p>〔 タマリロ 〕</p> <p>Tamarillo</p> </div> <p>南米が原産地で広く分布。ニュージーランドやポルトガルなどで栽培されている。別名ツリートマト。味も香りもトマトに似ている。</p>	 <div data-bbox="1552 510 1780 562"> <p>〔 リュウガン 〕</p> <p>Longan</p> </div> <p>インドから東南アジア、中国南部原産。おもな栽培地は中国南部、台湾、インドシナ半島など。果肉はブドウに似て、爽やかな酸味が味わえる。</p>	
 <div data-bbox="160 1056 385 1108"> <p>〔 マルメロ 〕</p> <p>Marmelo</p> </div> <p>中央アジア原産。別名「西洋かりん」。果実は豊かな芳香があるが、生食はできず、果実酒、蜂蜜漬け、ジャムなどにする。</p>	 <div data-bbox="510 1056 736 1108"> <p>〔 フィンガーライム 〕</p> <p>Finger lime</p> </div> <p>オーストラリア原産。生産地は同国やニュージーランドの熱帯雨林。ライムのような酸味があり、食感から「森のキャビア」と呼ばれる。</p>	 <div data-bbox="857 1056 1083 1108"> <p>〔 キワノ(ツノニガウリ) 〕</p> <p>Horned melon</p> </div> <p>アフリカ原産。ニュージーランドなどで栽培されている。バナナとパッションフルーツを組み合わせたような味。食感はザクロに似ている。</p>	 <div data-bbox="1205 1056 1430 1108"> <p>〔 ランブータン 〕</p> <p>Rambutan</p> </div> <p>東南アジア原産。熱帯アジアに広く分布する。甘くジューシーで、ライチにも似た味。ビタミンCや鉄分、カルシウムが豊富に含まれる。</p>	 <div data-bbox="1552 1056 1780 1108"> <p>〔 スターフルーツ 〕</p> <p>Starfruit</p> </div> <p>インドなど熱帯アジアが原産。台湾、ブラジルなど熱帯から亜熱帯地域で栽培されている。味は淡泊。サラダに添えたりピクルスなどに使われる。</p>	 <div data-bbox="1869 1056 2139 1108"> <p>〔 グアバ 〕</p> <p>Guava</p> </div> <p>アメリカ大陸の熱帯地域原産。広く世界中で栽培されている。オレンジの約4倍ものビタミンCを含み、熟して柔らかくなったら皮ごと食べられる。</p>
 <div data-bbox="160 1623 385 1675"> <p>〔 ドリアン 〕</p> <p>Durian</p> </div> <p>東南アジア原産。タイ、インド、オーストラリアなど広く分布。強い香りや甘味、巨大な果実から「フルーツの悪魔」「果実の王様」と呼ばれる。</p>	 <div data-bbox="510 1623 736 1675"> <p>〔 ローズアップル 〕</p> <p>Rose apple</p> </div> <p>東南アジア原産。世界の熱帯地域に広く分布。果実にはバラのような芳香があり、味は淡泊。生食のほか、ラム酒の香り付けにも用いられる。</p>	 <div data-bbox="857 1623 1083 1675"> <p>〔 ドラゴンフルーツ 〕</p> <p>Dragonfruit</p> </div> <p>中南米原産。台湾、イスラエルなどで栽培されている。サボテンの果実。ジューシーで甘く、種も一緒に食べるためキウイのような食感。</p>	 <div data-bbox="1205 1623 1430 1675"> <p>〔 ジャックフルーツ 〕</p> <p>Jackfruit</p> </div> <p>インド原産。世界中の熱帯地域に分布する。甘く、粘りのある食感が特徴で、未熟な果実は東南アジアでは野菜として煮物や炒め物に使われる。</p>	 <div data-bbox="1552 1623 1780 1675"> <p>〔 フェイジョア 〕</p> <p>Feijoa</p> </div> <p>中南米原産。ニュージーランドが最大の栽培地。パイナップルとバナナ、イチゴを合わせたような甘みと酸味のバランスがよく、さっぱりとした味。</p>	 <div data-bbox="1869 1623 2139 1675"> <p>〔 パパイア 〕</p> <p>Papaya</p> </div> <p>メキシコ南部および西インド諸島原産。世界中の熱帯地域で広く栽培されている。まるやかな甘さと、なめらかな舌触りで人気が高い。</p>

## お好みはどれ？ 世界三大フルーツ

*The world's three greatest fruit*

世界三大フルーツは、大航海時代に探検家が世界各地で食べたフルーツを賞賛したことで広まったという説がある。マンゴーは馴染みがあるがチェリモヤはどうだろう。食文化と同様、その国や土地ならではのフルーツがある。まだ味わったことのないフルーツに出会う、クルーズではそんな体験もしてみたい。



### マンゴー

Mango

原産地はインド。世界で500種以上の品種が栽培されている。皮と種が薄いタイ産マンゴーは、クセがなく入門編としてはうってつけ。



### マンゴスチン

Mangosteen

東南アジア原産。上品な甘みで「果物の女王」と称される。果肉はデリケートで賞味期間が短いため、早めに食べるのがおすすめ。



### チェリモヤ

Cherimoya

原産はペルーやエクアドル。地中海地方、台湾、オーストラリアなどで栽培。甘くやわらかい食感で「森のアイスクリーム」と呼ばれる。

※マンゴーの代わりにドリアンやパイナップルが入ることもある。

### クルーズでも人気のフルーツパーティ

シンガポール寄港後に開かれる「フルーツパーティ(有料)」。レストランに仕入れたばかりのカラフルなフルーツが20種類以上並ぶ。ビュッフェスタイルで好みのフルーツから初めて食べるフルーツまでおなかいっぱい満喫できる。





# キャンペーンシップとして SDGsを世界に広める

1983年の設立以来「国際交流の船旅」を続けているピースボートは2002年に国連との特別協議資格を取得。近年は国連から世界唯一のSDGs公式キャンペーンシップとして認定され、世界を旅しながらSDGsの達成を目指すためにさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。また2016年8月に出航した世界一周の船旅を皮切りに、船体にSDGsのマークをペイント。世界中の港でSDGsの重要性をアピールしている。



NGOピースボートスタッフ  
ルイス・ソレンセン



ピースボートの船体に大きく描かれているSDGsの公式マーク。

ピースボートは国連との特別協議資格を持つNGOとして、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指すさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。たとえばオブシヨナルツアーでは、シンガポールでフードバンクのNGOの作業を手伝い食糧問題への理解を深めたり、カンボジアで地雷廃絶キャンペーンを展開したり、タスマニアの原生林の森林保護について考えたりといったプログラムを実施。また洋上でも健康や福祉、教育などについて学び、実践者の裾野を広げている。

2018年出発の第98回ピース

ボートクルーズでは7月12日から2日間ニューヨークに寄港し、持続可能な社会を目指す国連本部での会議に参加した。「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）」という内容で、SDGsの世界での進捗状況を把握し、成功事例と課題について検討し、今後の対策を立てるものだった。会議には国連関係者をはじめ各国政府要人、企業関係者、市民社会のリーダーたち1000人以上が参加し、活発に意見が交換された。

またピースボートは国連SDGsアクションキャンペーンとパートナー

シップを結び、その覚書の署名式もフォーラム内で行われた。覚書ではピースボートは「国連SDGsを広める国際的なアクションを行う」「『地球大学』などピースボートの教育プログラムを共に開発する」といったことが約束されている。

ピースボート国際部のルイスさんは次のように語る。

「SDGsアクションキャンペーンのパートナーであることは重要であると同時に責任もあります。SDGsと聞くと環境を思い浮かべる人が多いと思いますが、17の目標の多様性を念頭におくことが大切です。環境問題以外にも健康や社会、政治的な問題も対象になっています。ピースボートは平和教育を中心に考えていますが、船内での水先案内人のプログラムや寄港地での交流ツアーなどを通じてその多様性を反映させようとしています。単なる『観光客』にとどまらず訪問する寄港地についての理解を深め、意見を交換したり議論したりすることで、クルーズの参加者の皆さまが『パートナー』そして『友人』となる機会が生まれるでしょう」。



国連や各国の代表を船に招いて関連イベントも開催された。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【SDGsとは】 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、2015年に国連サミットで採択された。環境や開発に関する17の国際目標(ゴール)とそれを達成するための169個の具体的なターゲットからできている。このゴールやターゲットは世界共通で、身近にあるものから世界規模のものまで様々。SDGsのスローガンは、「誰一人として取り残さない」こと。国や個人が、それぞれの課題に取り組み、それぞれのターゲット、そしてゴールを達成することで、「持続可能な社会」をつくらうとしています。



# ピースボートの寄港地でSDGsを学び実践する

ピースボートのオフショナルツアーには、現地の人々との交流をはじめ社会的問題を考えたり、支援を必要としている場所に物資を届けたりといったプログラムが組まれている。その一例を紹介したい。



## アンティグアの子どもたちを支援

プエルトケツアル(グアテマラ)



先住民が多く住み、貧富の差が激しいグアテマラは長期にわたる内戦も経験



し多くの社会問題を抱えている。首都アンティグアは観光客で賑わっているが、周辺に

は経済的に貧しい人も大勢住んでいる。ピースボートはプエルトケツアル地区で活動しているNGO「アソシアシオン・ミンナサン」への支援を約10年にわたり継続的に行っている。「アソシアシオン・ミンナサン」は、地元有志のポケットマネーからスタートしたグループで、アンヘリカさんという女性が中心となって活動してい

る。地域の子どもたち向けの補習授業などを行っているため、勉強で使用するペンやノート、文房具、ぬいぐるみなどを届けている。アンヘリカさんは「多くのサポーターで続けてくることができました。子どもたちにとってもピースボートの皆さんが訪ねてくれることはとても大きな経験です。また来てくれることを楽しみにしています」と語っている。



SUSTAINABLE

DEVELOPMENT



## 気候変動から島国を守る

フィジー共和国



ピースボートでは2017年より気候変動危機の最前線にある島国や沿岸出身の若者をピースボートクルーズに招待する「オーシャンユースプログラム(海洋保護・気候行動のためのユースアンバサダープログラム)」を実施している。これまでツバルやマーシャル諸島、モルディブ、トリニダード・トバゴなど10を超える国や地域の若者が参加し、自分たちの暮らしている島々が気候変動や海洋汚染によって受けている影響や必要とされる対応、取り組みを乗船者や寄港地の人々に伝えている。

フィジーから参加した若者は「海は美しく神秘的であると同時に、とてもおそろしい存在でもありません。もし今のまま気候変動が進行



の場を設け、さらに協力してマングローブの植林やビーチの清掃などを行っている。また2015年に締結されたパリ協定において大きな役割を果たした国連気候変動枠組条約(UNFCCC)元事務局長のクリスティーナ・フィゲレスさんもオーシャンユースプログラムを積極的に支援している。2017年にはクルーズに乗船いただき船内での講演、ディスカッションに参加していた。こうした意見交換は国連にフィードバックされ議論の活性化につながっている。

演、ディスカッションに参加していた。こうした意見交換は国連にフィードバックされ議論の活性化につながっている。



## 女性の自立支援を考える

コーチン(インド)



南インド、ケーララ州のコーチンでは女性支援施設「ヴィマラ・ウエルフェアー・センター」を訪ねた。この施設は、貧困地域に住む女性のための職業訓練校。ケーララ州はインド全土のなかで経済的に豊かな州であり、近隣から出稼ぎの人が増えたが、ケーララ語を話せない人々の賃金は低く、将来の展望のない貧困状態に陥っていた。ヴィマラセンターは、修道

和やかに食事をいただいた。手でカレーを口に運ぶのもよい体験になった。参加者の多くから「仕事をしている様子がとても興味深かった。女性のための良い仕事環境づくりが勉強になった」という声が聞かれた。



院が主体となって設立され、こうした女性たちに手を差し伸べてきた。仕事と職業訓練を兼ねた工房は裁縫部門と繊維部門があり、手に職を付けられるようになっていく。女性たちはセンターの徒歩圏に住み、就労時間は家族の状況によって考慮される。賃金は州の平均賃金を上回り、昇給もある。現在150人以上が働いており、技能の向上とともに多くの女性が「卒業」し自立していった。そのほとんどが一人で家族を養っているという。仕事を終えた後、現地の女性たちは歌や踊りを披露してくれ、参加者にインド古典舞踊を教えてくれた。また昼食時にはみんなが一緒にあって、



## 希少な固有種を守る

ガラパゴス諸島(エクアドル)



が生息している。島の南の岩場に向かって空を見上げれば、アカハシネッタイチョウ、グンカンドリが飛んでいる姿を見ることが出来る。運が良ければ、アオアシカツオドリの求愛活動に遭遇できる。ピースボートでは再度危機遺産リストに登録されないように、「ガラパゴスの森再生プロジェクト」を発足させている。これは固有種の生き物たちを守ることにつながるもので、訪れるたびに島の在来種のスカレシア、マルガリータの苗木を現地の中高生とともに植林している。



ガラパゴス諸島は「動物が主役の島」といわれ、独自の生態系をもち1978年には世界遺産第一号に登録された。しかし入植者の環境破壊、外来生物の影響などで2007年に「世界危機遺産リスト」に載ってしまった。現在、危機遺産は解除されているが固有種の保護活動はきわめて重要だ。ツアーでは、主にガラパゴスゾウガメ保護や研究を行っている「チャールズ・ダーウィン研究所」を訪れその生態への理解を高め

## クルーズ参加者へ ピースボートSDGs担当者からメッセージ

皆さんには船旅の経験だけでなく、クルーズをより持続可能なものにするための貢献についても考えていただきたいと思います。環境に配慮することはもちろん、クルーズがあらゆる国籍、経歴、アイデンティティを持つ人々を歓迎するような空間にすることも重要です。「誰一人取り残さない」というのはSDGsの大切なスローガンであり、より平和な世界をつくるというピースボートのミッションと重なります。これからのクルーズでもSDGsに関連したさまざまな取り組みを行っていきます。皆さんのご乗船を心よりお待ちしております。





# パレスチナ・ガザ地区へ人道支援 現地パートナー、ザヘルさんの 家再建プロジェクト

20年以上にわたって  
パレスチナを支援

ピースボートとパレスチナの関係は世界一周クルーズを行うようになった1990年代から始まっている。当時より占領下に暮らす人々をサポートし、現地の団体と交流したり、ゲストを招いて状況を報告してもらったり、

といった関係で親交を深めてきた。またクルーズでの寄港だけではなく、日本で募金活動を行い支援する方たちも継続してきた。たとえば2008年と2009年のイスラエル軍によるガザ地区への軍事攻撃においては人道支援として援助物資を届けた。また避難所生活をしている人たちへ毛布や食糧を送り、子どもたちへ文房具や学校で使うカバンなどを提供している。



イスラエル軍の占領を終わらせ、平和的にパレスチナ国家を成立させるためにピースボートはこれからも支援を続けていく。

今年5月からはじまった  
軍事衝突の激化

このような状況のなかで今年の5月にシヨクなニュースが飛び込んできた。イスラエル軍とガザ地区の武装勢力との軍事衝突。イスラエル軍の空爆は激しさを増し、パレスチナ側に200人以上の犠牲者が出てしまった。そのうち半数以上が女性と子どもであった。

またイスラエル側にも10数人の死傷者が出ている。「ニュースの後、現地のパートナーたちと連絡をとり状況を確認したところ、人々は毎日恐怖にさらされ怯えていると聞きました。ガザ地区は人口密度が高く、一つのビルに一般の家、学校、病院などが入っていることがあります。イスラエル軍はターゲットしか狙っていないと主張していますがそのビルに民間人が住んでいるケースが少なくないです。だから女性や子どもも犠牲になったのです」とピースボート国際部のメリ・ジョイスさんは語る。また今回は特に空爆が長く続いたため、これまで以上に被害も大きく広がっているようだ。



現地パートナー・  
ザヘルさんの家が被害に

そして現地と支援内容についてやりとりをしている最中に、現地パートナーの一人で人道支援活動家のザヘル・サビーハさんが家族と暮らす集合住宅が、空爆で破壊されたという連絡が入ったのだ。今回もガザの状況を伝えてくれていたザヘルさんのショックは計り知れない。これまでにもピースボートに何度も乗船し、水先案内人を務め、現地でのプログラム実施のサポート役を務めてくれるザヘルさん。そこでピースボートとしては今回、いつもとは違うかたちで「ザヘルさんの家再建プロジェクト」を立ち上げた。

ザヘルさんの家再建は  
地域支援の第一歩

「ピースボートは『顔の見える支援』を実践し『友情や連帯を大切にする』ため、今回のプロジェクトを立ち上げました。またザヘルさんはコミュニティのリーダーであり彼の家を再建することで人が集まる場所ができ、人道支援の拠点にもなるという意図もあります」とメリさんは言う。家の崩壊後は落ち

一人でも多くの支援を  
現地へ届けたい

込んでいたザヘルさんから「ピースボートの仲間は私たちのことを忘れていない。直接は会えなくても思ってくれていることが本当に支えになっている」と感謝の声が届いた。しかし「方で「空爆があつたときは世界中が注目し報道をします。ただ、停戦になり多くの人が問題は解決したと感じているかも知れませんが、状況は何ひとつ改善されていないことを知って欲しいです」という言葉も真摯に受けとめたい。



現在、集まった募金と企業などからの寄付を合わせて目標額の約半分ほどになり、手続きを進めている。ガザのビルの建て方は一度ではなく最初に2、3階まで建てて、後から上階をつくっていく方法なのでこの資金で家づくりは取りかかれるそうだ。最後にメリさんからのメッセージも

ピースボートでは、50年以上にわたり占領され続けているパレスチナの人々をサポートし、国際社会への問題提起、改善の訴えかけを行ってきた。長年紛争が絶えない地域において、今春イスラエル軍とガザ地区の武装勢力との軍事衝突が起きた。イスラエルからガザ地区への空爆が長く続き、多くの犠牲者と被害が出たなかで、ピースボートの支援について紹介する。



## ガザに住むザヘルさんの家の再建募金

NGOピースボートでは、ザヘルさんの家再建からパレスチナの平和を目指して募金活動を実施しています。皆様のご支援、ご協力をお願いします。



お届けしたい。「パレスチナには紛争のイメージが強いかも知れませんが、ガザにも普通の暮らしがあります。家族がいて、子どもは学校に通い、人々のふれあいがある。それを取り戻し、よりよい未来のために私たちはサポートを続けます。ザヘルさんは「寄付で集めていただいた金額以上に、日本で何人の方が私たちに関心をもつて、応援してくれているか、その人数に励まされます」と言っています。ぜひ皆さんの支援をお願いします」。



# 船上百景 [虹]

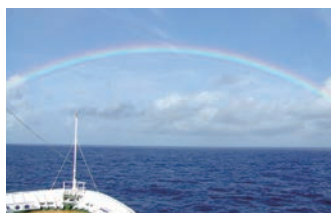


陸上では180度の半円を描く虹を見る機会は少ない。さらに二重の虹は船旅ならではの体験だ。

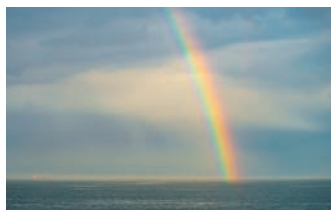
## 大海原にかかる虹 それは幸運の予感

虹は幸運のシンボルともいわれており、空にかかった七色の光を見るとハッピーな気持ちになる。見つけるのはいつも偶然だが、その出現は科学的に証明されている現象である。簡単にいうと、太陽が出ていること、雨と晴れ間の境い目であること、そして太陽を背にしていること。たとえば夕立の後などは絶好のチャンスになる。

ピースボートクルーズでも、虹を見る機会はある。寄港地で出会うことも多いが、なんといつでも洋上から見る虹は格別だ。ちよつと雨がパラついた後に晴れ間が見えてくるときなど、大海原にかかった見事な虹を見ることができ。また海面から立ち上るような虹もあれば、二重にかかった虹が出現することもある。なにもさえないものがないため雄大で、美しい。デッキに出ている人たちから大きな歓声上がる。そして「なんだか、いいことがありそう」、あちこちからそんな声が聞こえてくる。



地平線の向こうに大きくかかった虹。そのときどきで違う姿で出現するのも虹の魅力。



船旅の安全を祈ってくれるように現われた虹。



「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」マザーテレサの有名な言葉です。今号で紹介した地中海全域を支配していたローマ帝国が造った世界遺産のコロッセオ。この巨大な闘技場を造らせたのは、古代ローマ市民の「無関心」でした。その意味は、食料と娯楽さえ与えておけば市民は政治に関心をもたなくなるという、権力者の思惑を揶揄した「パン（食料）とサーカス（娯楽）」という言葉に表れています。

人は誰からも相手にされず、無関心でいられることほど辛いことはありません。例えばそれはパレスチナやミャンマーの人々と同じです。ガザ地区に暮らすザヘルさんが言った「遠い日本の皆さんが関心を持ってくれていることが支えになっている」という言葉がそれを物語っています。

世界を旅していると、テレビやSNSに映るバーチャルな世界ではなく、リアルな現実を目にします。人は自分の目で見て体感したことには興味や関心を持ちやすくなると思います。とすると、世界を旅するということは「関心を持つこと」でもあるのかもしれない。愛の反対語が無関心であるならば、関心を持つことは愛そのものです。SDGsが掲げるスローガンでもある「誰一人として取り残さない」そんな社会を目指して、ピースボートはこれからも愛を関心に満ちた旅を目指して船を出し続けます。（N・I）